水は商品ではありません

# 水道民営化

## を考えるシンポジウム

| | |
|---|---|
| 日　時 | 6月1日(土) PM1:30～4:30 |
| 会　場 | ぎふメディアコスモス・みんなのホール（定員200名）<br>岐阜市司町40番地5　TEL.058-265-4101 |
| 入場料 | 無料(資料代 500円) |

| | |
|---|---|
| 基調講演 | 尾林 芳匡 弁護士　「水道の民営化・広域化を考える」 |
| シンポジウム | 辻谷　貴文　一般財団法人全水道会館・水情報センター事務局長<br>池谷たか子　浜松市の水道民営化を考える市民ネットワーク事務局長<br>津田　直彦　命の水を考える会ぎふ代表<br>近藤　夏樹　名古屋水道労働組合中央執行委員長(コーディネータ) |

会場案内

主催　命の水を考える会ぎふ

協力　東海圏・トップセールス事業体
リレーシンポジウム実行委員会


連絡先　090-1284-1298
長良川市民学習会　武藤


リレーシンポジウム　6/30(日)PM2:00～　岡崎市むらさき館 1F ホール　「水道民営化を考える講演会」内田聖子氏 講演

昨年12月、水道事業の民営化を促す水道法「改正」が強行採決され、本年10月施行されます。
「えっ! なんで今、水道民営化? 私たちの命の水は大丈夫? 」市民の多くが心配しています。

本年3月の議会で岐阜市長も岐阜県知事も「今のところコンセッションなどの水道民営化は考えていない」と明確に答弁され、ひと安心です。しかし、岐阜市は、国が作ったコンセッション導入に向けた働きかけ（トップセールス）リスト23水道事業体の中にリストアップされています。同じくリストアップされた浜松市では市長が民営化の先陣を切ろうとしましたが、市民の猛反発を受け「民営化の検討は延期」としました。しかし、予断は許さない状況です。2013年、世界に向かって「日本の水道事業を民営化します」と宣言した麻生大臣。内閣府のトップダウンの圧力が各自治体に強まることは明らかです。

「命の水」を守るために、今、投げかけられている「民営化」「広域化」問題を、私たちはどう考えたら良いのか、地域で考えたいと思います。東海圏では浜松市、岡崎市、岐阜市、三重県、四日市市がリストアップされています。本シンポジウムは、これらの地域のみなさまとも情報交流しながら企画しました。また、運動のつながりで、全国的な活動を展開されている方々の登壇も実現することができました。

「命の水」を考えるみなさま、是非ご参加ください。

[ プロフィール ]

**尾林 芳匡**

東京大学法学部卒業。1990年弁護士。

1961年生まれ。弁護士として過労死などの労働問題に取り組むほか、自治体民営化の問題点を早くから指摘し、講演やメディアでコメント。「新自治体民営化と公共サービスの質」「PFI神話の崩壊」「Q&A自治体アウトソーシングの現段階」「自治体の偽装請負」「これでいいのか自治体アウトソーシング」「TPP・FTAと公共政策の変質」「水道の民営化・広域化を考える」など著書多数。

**辻谷 貴文**

一般財団法人全水道会館・水情報センター事務局長

1974年大阪市生まれ。大阪市水道局職員を経て水道事業や水道政策に関心。労働組合活動や市民運動を通じて、社会運動に取り組むかたわらで、現場若手時代に経験した阪神淡路大震災の応急給水や復旧活動で、水道事業・公共サービスの重要性を再認識する。全日本水道労働組合書記次長、超党派水制度改革議員連盟参与、水循環基本法フォローアップ委員幹事ほか。

**池谷 たか子**

「浜松市の水道民営化を考える市民ネットワーク」事務局長

浜松で生まれ、浜松で育つ。亡き母はどこへでも署名を持って行き、声をかける人だった。小学生の頃は恥ずかしがり屋でおとなしく、人前で話すことが苦手だった。若いころは、保育の仕事での行事や、合唱団美樹で人前に立つときは、必ずお腹が痛くなった。反原発の金曜行動が、浜松でも行なわれるようになって、駅前の行動に参加。今ではやっと駅前でマイクを握っても腹痛にならなくなった。

**津田 直彦**

「命の水を考える会ぎふ」代表

1986年生まれ。岐阜市出身。大学卒業後、情報システム会社勤務を経て、自営業。元々、社会運動の経験は全く無かったが、水道民営化だけは絶対にやってはいけないと思い、議会請願しようと各会派議員に会い訴えた。インターネット上で情報発信し、市民の勉強会に参加する過程で、社会運動の経験が豊かな方々と出会い「命の水を考える会ぎふ」を立ち上げた。

**近藤 夏樹**

名古屋水道労働組合中央執行委員長

1963年生まれ。岐阜市出身。名古屋市上下水道局職員。鍋屋上野浄水場で技師として勤務しながら、自治労連公営企業評議会事務局長として全国の地方公営企業現場を東奔西走。上下水道事業経営の提言でも奮闘中。